

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670801125		
法人名	株式会社ふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	998-0071 山形県酒田市古湊町9番8号		
自己評価作成日	平成 28年 11月 20日	開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 12月 13日	評価結果決定日	平成 29年 1月 4日

(ユニット名 西の家)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

機能維持・体力低下防止の為、毎日レクリエーションやリハビリ体操を行っています。また、自分らしい生活をして頂く為に、ご本人の意思を尊重し笑顔でゆったりと過ごせるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海沿いの住宅地に立地し、前庭には畑もあり晴れた日には外に出て農作業の気分を味わい、併設するデイサービスとユニット間は廊下やウッドデッキの中庭を通り自由に行き来し、それぞれの職員が隔てなく見守っています。基本理念に「ひとりひとりの希望にそった日常生活のお手伝いをします」を掲げ、利用者とのかわりを最優先にして現在持つ力を存分に振るってもらい利用者双方が楽しめる生活を目指しています。また誇りやプライバシーを尊重しながら排泄を重視した取り組みでできるだけオムツ対応にならないように努めています。地域とは年々関係を深め認知症に対する理解を得、介護事業所としての力を発揮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をふれんど内の玄関と食堂、事務所に掲げ、ご利用者一人ひとりの希望に添った日常生活のお手伝いに努め、実践している。	事業所内に目に入りやすく掲示し、行動の振り返りを促している。職員は日ごろのかかわりの中で利用者が何を望んでいるのかを受け止め、出来ることはやってもらい、いっしょに楽しみながら支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、自治会行事にご利用者、職員が一緒に参加している。子供会が伝統行事でまわって来てくれたり、敬老会では大黒舞の踊りの慰問もあり、地域との交流に努めている。	酒田祭りで子供神輿が訪れたり、保育園児の訪問で利用者とはふれあい交流をしている。また地元自治会主催のいきいきサロンでは、介護についての講話や認知症予防体操の指導を通して地域のくらしに貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会でのサロンに包括支援センターと共に参加し、地域の方々へ介護についての講話などを実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告に終る事無く、そこでの意見を活かし改善に努めている。	利用者や自治会長などが参加して現状や運営の報告などを行っている。メンバーからは防犯や防災、地域のニーズなどの話題が提供され、情報を交換しながら取り組みに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、問題があればその都度連絡を取り協力出来るようにしている。	市担当者や地域包括支援センターには運営推進会議で現状を伝えている。市の研修会へ参加したり疑問点を相談し、市からは空室の問い合わせや困難事例の受け入れ要請などもあり、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	マニュアルを作成し周知徹底している。また状況をみながらミーティングを行ない、情報の共有を図るようにしている。	研修で身体拘束の内容と弊害を学び全員が理解し、気になる言葉づかいもその都度チェックし合っている。帰宅願望のある方には寄り添い、行動背景なども推察しながら施設内を自由に歩いてもらい抑制のないくらしを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を周知し、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度の資料を準備して閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は十分に説明を行うとともに意見や質問などを受けるなどして不安のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族等の意見に耳を傾けながら、運営に反映させるように努めている。	請求書と共に写真入りの便りを送付し暮らしの様子を伝えながら、月一度の納付時に来訪してもらい利用者や職員と歓談する機会を作っている。家族等には遠慮なく話してもらえよう雰囲気作りに心がけ、出された意見や要望は申し送りノートで共有し取り組みに活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、話し合う時間をとるようにして会議等で早期解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じ手当及び昇給等を行ない、労働意欲向上に努めている。また、資格取得のためのバックアップや就業規則を改正し、安心して働ける環境作りをしている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が研修計画を立て、外部研修や職場内での伝達講習を実施している。	研修委員会を中心に内外の研修予定や人選を行っている。外部研修を受けた職員が講師となり伝達研修をしている。資格取得の際には費用の一部負担や学習面のバックアップなどもあり、意欲のある職員が多く育っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市が主催するサービス事業者連絡協議会への出席や、庄内グループホーム連絡会での交流会や各種研修へ参加し意見交換をしている。	研修や利用者交流会などで他事業所と親交を深めてサービスの向上に活かしている。また交換実習の受け入れでは、実習生の感想から事業所取組の再確認をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には、現況報告書を提出していただき、入所の順番が近づいた時には事前面接を行ない、ご本人やご家族の意向を確認して入所につなげるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人がいる前では話しにくい事柄があるので、個々に相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で知り得た情報の中で他のサービス利用を含め、計画作成担当者や職員で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年の功の知恵を活かした日常生活での関係を築き上げるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望には必要に応じて家族と共に取り組み、面会時はゆったり過ごせるように配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にドライブや外出に出掛け、馴染みの関係が築かれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、ご利用者同士がコミュニケーションをとれる様に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の生活環境が変化するため、これまでの経過を詳しく説明し、ご本人とご家族の不安が軽減される様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしに対する思いに関心をもって、把握に努める。把握が難しい場合は生活歴によりご利用者の立場で考えて検討する。	日ごろの会話やかかわりの中で把握に努め、些細な事でも申し送りノートに記入している。いつでも内容の確認が出来るようにしながら利用者の思いに沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用調査票を作成し、職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりの身体状況や精神状況などを申し送りや日々の打ち合わせなどから総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に色々な意見をいただき、ご利用者の現状を考えながら担当職員、看護師と共に介護計画を作成している。	申し送りノートやケアチェック表を活用し、本人や家族等、看護師や担当職員の意見を取り入れながらモニタリングをしている。歩行や排泄の機能訓練を組み入れるなど、本人に適したプラン作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子は、個人記録や業務日誌に記入し、職員間での情報共有や介護計画の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の心身の能力を出来るだけ発揮してもらいながら、理美容院、自治会、ボランティアの方々と共同して豊かな暮らしが出来るように支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者一人ひとりの状態を把握し、主治医の往診時やご家族との通院時に情報提供が出来るようにしている。	ほとんどの方が往診がある協力医をかかりつけ医としている。受診時は健康状態の変化などの情報を提供し、適切な診療を受けられるようにしながら受診経過記録により緊急時にすぐ対応できる体制を整えている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算による看護師を配置し、日常の健康管理や医師との相談、連絡を取るなどの支援に努めている。状況により通院時に同行する。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医療機関との情報交換を行い、できるだけ早く退院できるように支援を行っている。また、必要な状況に応じ看護師と病院関係者が情報交換を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、個人差があるので症状に合わせて医師やご家族と相談して経過をみながら取り組んでいる。	基本的には看取りはしないと家族等には説明して理解を得ているが、重度化した時は医師と家族等が話し合い、希望があれば医師の協力のもと看取りケアを行っている。経験ある職員を中心に研修を行い対応できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てずに適切な行動がとれるように、AEDを取り入れた研修やマニュアル集を作成し、取り組んでいる。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中と夜間を想定して行っている。地域の防災訓練に利用者、職員共に参加し協力体制に取り組んでいる。	火災避難訓練や地域の防災訓練に利用者が一緒に参加して災害時に備えている。海のすぐ近くに立地しているため特に津波災害時の避難場所への誘導方法について日頃より職員間で共有している。	地震・津波等災害マニュアルを整備して周知を図ると共に、地域との更なる協力関係を築くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者はお客様であるという考え方で接するとともに、プライバシーの確保という基本的な事柄については全職員が気を付けている。	利用者とのふれあいの中で得た気づきを共有して、恥ずかしさや屈辱感を与えないようにプライバシーに配慮している。言葉づかいに気を付けながら人間性を尊重した取り組みを行っている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の言葉だけでなく、表情や行動を注意深く観察しながら、日々の関係の中で、思いが気付けるように援助を行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかに過ごしたい傾向にあるが、ADL低下防止のためにレクリエーションや体操、散歩等を取り入れた支援を行なっている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりの衣類は長く着用できるよう職員が手直ししている。日常的に化粧をしておしゃれをする方もおられる。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体的にADLの低下がみられるが食材の下準備等、出来る事を一緒に行なっている。行事食やご利用者の希望も取り入れたメニューで楽しく食事が出来る様に支援している。	調理師資格を持つ職員が栄養管理を行い、希望を取り入れながら献立を作っている。利用者からは出来ることを手伝ってもらい、外食や誕生会等の行事食・おやつ作りなどを楽しみ、いっしょに食べることで生きる喜びに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態にあわせた食事量、バランスのとれた食事を提供している。また水分は食事以外でもお茶やコーヒー、ジュース等で摂取できるように支援している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯ブラシは欠かさないように声掛けをし、自分で出来ない方は職員が介助してブラッシングしている。義歯の方は夜間に洗浄剤も使用している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁のある方でも定時誘導を継続して習慣性を大切にしている。また、一人ひとりの行動を把握し排泄のタイミングを計り誘導を行っている。	一人ひとりのパターンに合わせて定時に声掛けして誘導し、トイレでの排泄を促している。オムツは極力使わず、生活する中で自立した排泄がいつまでも続けられるよう見守っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の便秘については排便のチェックをしながら、乳製品を提供したり運動をしたりして、できるだけ自然に排便できるように工夫して支援している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に一日おきに入浴を行っているが、希望があれば毎日の入浴での対応を行っている。	基本は1日おきの午後となっているが、希望があれば午前や毎日でも入浴出来るよう介助体制を整え、利用者の楽しみに繋げている。また、時にはデイサービスのひのき風呂を利用してゆったりした気分を味わってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して、できるだけそれに沿った支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は全員が見て把握できるようにファイリングしている。また飲み忘れや誤薬を防ぎ、体調が変化した時の薬の調整などの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの内容に変化をつけて、一人ひとりの力の発揮場所ができるように支援している。季節の食材で保存食作りを行なっている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛ける時は職員に声をかけてもらい、見守りができる対応になっている。季節を感じて頂けるようにドライブ等行ない、ご家族と外出の場合は最近の心身の状況を伝えて、安心して外出してもらえるように支援している。	日頃から「ちょっとした外出」ドライブに誘い、気分転換を図っている。散歩や畑作業、季節の行楽行事や外食に全員で出掛け、外気や町の人々とふれあうことで利用者の笑顔を生み出すよう支援している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しているご利用者の方は、本人より希望があった場合は職員と一緒に買い物に行ったり、職員が品物を購入してきたりしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合は、電話をかける支援を行なったり、ハガキ等の購入やポストへの投函を行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い居室には遮光カーテンを使用したり、トイレなど共用の空間には芳香剤を置き、不快感をなくしている。お互いのユニットと通所が行き来できるため、ゆったり過ごす事ができ、玄関や廊下には季節毎の創作物を飾っている。	ウッドデッキの中庭を2つのユニットとデイサービスが囲み天気の良い日は日向ぼっこする利用者の姿が見られる。季節の飾り付けや創作品を展示したリビングは毎日の掃除や空調で過ごしやすくなっており、それぞれの居場所でのんびり寛いでいる利用者の様子がうかがえる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースでは一人になれる場所はないが、昼敷きの談話スペースがあり、利用者が活用できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中は全てご本人の私物となっていて、居心地良く過ごされている。	プライバシーが保たれた中でこれまでの生活環境を守りながら、愛着ある用品を持ち込み、過ごしやすい居室作りをしている。ナースコールやすべり止めマットなどで安全にも配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差はなく、廊下には手すりが設置されている。利用者には出来ることは行ってもらい、不安がある事については職員が見守りながら一緒に行っている。		